

第3回 文字・活字文化 シンポジウム

紙と電子「棲み分け」さぐる

電子教科書には危惧も

電子書籍リーダー・キン ドルの日本上陸、電子教科書の本格化など「電子化」が急展開し、他方、3・11 大震災などで「文字・活字の力」が見直されるなか、第3回文字・活字シンポジウムが10月27日、東京都内で開催された。

このシンポは「文字・活字文化の日」(10月27日)の制定にちなんで、文字・活字文化の振興を図ろうと、関連する労働組合である新聞労連、全印総連、出版労連が開催してきた。

創る読書」などの著書のあ る酒井邦嘉・東大教授が講演した後、文化放送アナウンサー・水谷加奈さんが朗読、酒井さん、被災地の書店を取材したノンフィクション作家・稲泉連さん、『週刊金曜日』発行人の北村肇さんが話し合い、参加した60人が耳を傾けた。

参加者からは、「文字活字の持つ力を再認識できた」「紙・電子書籍の双方を研究し、良いものを作っていくきたい」など、多くの意見が寄せられた。

(以下、要旨・文責編集部)

文字を支える脳

【講演】東京大学教授

酒井邦嘉さん



◎科学は空想の延長に

絵本作家安野光雅さんの本『空想犯』の中で、「科学は一見非科学の空想が土壌である」という一文にめぐり合った。私も空想の楽しさを実感して科学者になった一人、あらためて「科学は空想の延長にある」と思えた。ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥教授の研究もiPS細胞を入れてみたら面白い、という「空想の産物」といえる。では、実際に「空想力」を身につけるにはどうしたらいいか。まず、静かに空想の時間を持つこと。時間を奪うテレビやケータイ、ネットなどはできるだけ避け、「紙の本」を読みながら、頭の中で空想の時間をつくるのが大切。

◎読書で「脳を創る」とは

「紙の本」は、テレビやネットなどに比べて情報量が少ない分、読書を通して言葉の意味を補う想像力が養われ、行間を読む能力、さらに思索に耽ること、自分のことばで考える力が自然と身につく。つまり、脳が創られる。これは創造的な意味での知性の形成を意味する。

さらに音声と文字の組み合わせが起きた時に、はじめて、脳の文字中枢の活動に変化が起きることも実験で証明されている。私たちが日々活字に触れてそれを読めるようになるのは脳にとって非常に大きな変化。子どもに対する読み聞かせの学習効果も大きい。

◎紙の本が持つ個性

一方、「電子書籍」ではその情報量の多さや、効率性、経済性を追求する余り、「紙の本」が持っている二冊一冊の個性がなくなる。読書の際も「紙の本」ではページごとに対応した厚さや位置情報の手がかりが記憶を助けるが、「電子書籍」ではリーダーのフォントでサイズやページの組み方が決まり、手がかりのない状態で読み返すことになる。さらに、思いがけない誤字・脱字、変換ミス、カット時のドラッグミスなど、言語とは無関係なミス

が度々起こる。これらは電子化・機械化によって起こる人為的なミスで、まだまだ改良の余地がある。

◎日本語は電子に馴染むか
日本人は活字文字として、表音文字のカナ・ひらがたと表意文字の漢字に日々触れている。表音文字のアルファベットやハンゲルを使うアメリカや韓国で

急速に電子化が進んでいるのに対し、「日本語に電子書籍は馴染まない」という見方もある。

アメリカではワープロを使う遙か前から、どの家庭にもタイプライターが導入され、活字をきれいに打てるようになった。逆に「手を動かして書く」という文化がなくなり、筆記体では解読できないというケースもある。その延長でよりきれいな活字がリーダーの上に並んでいる電子書籍の普及につながっている。

これに習って、独自の文字・活字文化をもつ日本でも電子化を進めるのは非常に危険な行為だと思う。

◎電子教科書には危惧

「紙の本」と「電子書籍」

本は暮らしの必需品

酒井邦嘉さん

ノンフィクション作家・稲泉連さん

『週刊金曜日』発行人・北村肇さん

●被災地で見た原点

(稲泉)被災地の書店を歩いて『復興の書店』(小学館)を上梓した。リュックを背負って食料を求めるのと同じく、書店に人が並び、

礼状の書き方、リフォームの本、中古車情報誌などが、生活必需品の一つとして買い求められた。震災写真集もベストセラーとなった。プライバシーのない避難所生活で読書は癒しとなり、出版不況の中で見えて磨き上げないところ。そう、書店や書籍の原点を見つめ直す機会となった。



稲泉連さん(右)と北村肇さん(左)

●電子書籍に個性はあるか
(酒井)没個性というのは長い目では衰退すると思う。文化としていろいろな

価値観や考え方を、思想を込めて磨き上げないところ。そういうものが電子化の中で欠落したら大衆は手離すと

思う。もし「電子書籍」を

デザインするなら秘蔵の本
が読めるなど、とても個性
的で無駄がたぐさんあるよ
うな付加価値を付けたい。

(稲泉) 紙のような質感

を再現する「電子書籍」も
登場するなど、お互い影響
されながら棲み分けが進ん

はい。だろ。 ●「言語研究所」で科学的
な検証を
の本」の活字が脳に与える
影響をきちんと比較検証す
る必要がある。

でいくのではないか。被災
地でも津波で流された本を
買い戻そうとする人がいた
が、電子化によって良本・
良書づくりを逆に突きつけ
られていると思う。

(北村) 質の高いものを

つづいていけば、全部「電
子書籍」に席卷されること

(酒井) 私の専門は言語
脳科学だが、まだ科学的デ
ータが少ない。日本独自の
文字・活字文化を発展させ
るには、シンクタンクを立
ち上げ、「電子書籍」と「紙

の社会的責務がある。

(北村) 人間が作ったも
のによって墮落するのは避
けたい。進化と退化、どち
らに向かうか、今後の運動
にかかっており、労働組合